

# 本山町 議会だより



高知県長岡郡本山町議会

vol. **188**

平成30年5月16日発行



4月22日に開催された「汗見川岸ツツジほのほの体験ツアー」

今回の主な内容

第2回3月定例会・臨時会	2	一般質問	16
広域議会	5	委員会報告	18
町長施政方針	6	いきいきインタビュー（第8回）	20

一般会計当初予算

総額49億8000万円に

平成30年3月定例会は、3月6日から3月19日までの会期で開かれ、条例案件は制定2件、一部改正13件、廃止1件。予算案件は平成29年度補正予算（一般会計・特別会計）6件、平成30年度当初予算（一般会計・特別会計）9件、その他9件の審議が行われた。

一般質問（P8から関連記事）は、10人の議員が町の課題について執行部の考えをただした。

新年度予算を問う

予算の詳しい内容は、「広報もとやま5月号」に掲載されています。

議案審議

平成30年度一般会計当初予算

(総括質疑)

大型事業

問 更新住宅、庁舎

答 分けることを含めて計画的な発注をを考えていきたい。

アウトドア施設関連

問 工区を幾つかに分け、同時発注する

答 考えはあるのか。

問 分けることを含めて計画的な発注を

問 レストランの設置場所の変更は、眺望をよくしたいという思いからか。

答 より景色のいい方へ移動し、滞在時間を長くしてもらおう。

問 集客人数の概算

答 1年間に出ている。1年間に5万4千人、1カ月で4500人、どう集客するのか

問 提案した人数は、類似施設の利用実績

答 を基に積算をしているので、この人数はクリアし、更に伸ばしていきたい。

問 旧技術科室が研修室になるようだが

答 設備に問題ないのか。

問 問題ない。研修に必要な備品は、固

定式ではなく可動式の機器を導入する。

問 ビジターセンター

答 ターの設計図を見る

と道路際に近いように思うが。

問 新本山大橋を渡

って正面になるので、PR面も考えた配置

問 施設内の外灯が

少ないのでは。

答 団体宿泊者の動

線も見ながら精査す

る。足元を照らす庭

園灯もこの中にある

ので、検討していき

たい。

問 団体宿泊者の食

事はレストランでは

なく研修室でとるの

か。食事を運ばねば

ならないのか。

答 団体の食事は、

弁当形式の昼食と、

朝食はデリバリーで

自分達で取っていた

問 デマンド方式等

も考えながら進めて

いくとのことだが、

町内交通業者も存続

が難しいと聞く。

答 地域の公共交通

守っていくのか。

答 地域を公共交通

守っていくことは非

常に重要だと考えて

いる。

町内における移動

手段を確保するため、

利用者や交通事業者

にも参加いただける

委員会、地域公共交

通会議を4月から立

費（浄化槽等）は発

生することから昨年

と同様に予算計上を

している。

(逐条質疑)

歳入 町税

問 たばこ税 予算

1300万円で前年

度予算より60万円の

増。この根拠は。

答 コンビニの参入

によるもの。

寄付金

問 ふるさと納税の

納税額がかなり減っ

ているが。

答 総務大臣の通達



▲魅力ある返礼品を「ふるさと納税」

納税サイトへのアクセス数は多いので、効果的な宣伝予算を組んで取り組みたい。

**問** アウトドア施設の宿泊券等もふるさと納税返礼品にしては。

**答** 券は換金される可能性があり難しい。長野県でアウトドアメーカーによる個人へのポイント付与で、20億円程の実績がある。ポイント付与も一つのやり方と考え、30年度には研究して進めていきたい。

**歳出 総務費**

**問** 用地購入事業153万2千円は。

**答** 高知県体から愛媛国体以降、カヌーの需要も一定あるので、借地であったふれあい広場（カヌー艇庫周辺）を購入したい。

**問** 移動手段確保支援事業1182万8千円の内事業委託料は、昨年より倍以上の525万円という金額が提示されている。内容を問う。

**答** 325万円は、実証運行委託料。

200万円は移動手段空白地での地域懇談会等の委託料。

**衛生費**

**問** カーボンマネジメント強化事業委託料100万5千円の内容は。

**答** 昨年度の1号事業費は907万2千円で、町内3つの施設の調査を行い、嶺北中央病院について



▲寺家カヌー艇庫

は温室効果ガス削減の効果があるという調査結果に至った。エアコンやLED等どうすれば一番効果的にCO<sub>2</sub>削減できるかということも、更に検討するために委託の予算を上げている。

※カーボン・マネジメントとは：  
二酸化炭素排出抑制を組織立って管理すること

**農林水産業費**

**問** 本山町産業活性化未来創造事業1814万8千円 その事業委託料1129万2千円、農用地利用推進事業委託料597万2千円について説明を。



▲農地を守る取り組みを

**答** 町が農業公社へ委託。「農地を守る取り組み」「6次産業を経て稼ぐ農業」という取り組みで、様々な交付金の支援を得て実施しているもの。

**商工費**

**問** 公園の管理委託料328万5千円の内容は。

**答** 帰全山公園、上街公園、若宮公園、早明浦ダム展望台（本町分）の公園管

第1回臨時会

平成30年2月22日

議案審議

平成29年度本山町  
病院事業会計補正  
予算（第1号）

防水改修工事

**問** 改修箇所を増やしたという説明だけで3600万円というのが妥当か。詳しい説明を求めます。

**答** 病院の雨漏りは広範囲にある。根本的に解消するには多額の事業費が要するため、昨年度は一番影響を懸念されていた機械室部分を実施した。

本年度は事務所からロビー、玄関あたりを状況を見て実施していく。

工事請負契約の変更について

平成29年度本山・五区統合簡易水道事業配水管整備工事（2工区）

**問** 送水開始はいつか。

**答** 現在新施設へ移行に向けての準備をしている。4月頃までには現施設と併用

しながら新しい施設への切り替え作業を進め、新年度早々には新しい配水池への送水を開始する。

**問** 一区の旧貯水槽、水源池はどうするか。

**答** 数年は予備として調整が必要。取り壊しは可能と考えるが現在は検討中。



▲早明浦ダム展望台（本山町側）

理を行っている。汗見川地域の展望台トイレ管理もこの事業の中でやっている。

土木費

**問** 空き家対策総合支援事業の内容は。

**答** 平成30年度は空き家除去を5棟。こ

れは、特定空家の指定が必要になるので、条件がある。また、空き家の活用事業として間接補助が5棟、直接補助が1棟。この空き家活用事業は、耐震化をしている住宅が対象と限定をされる事業になる。

※空き家対策総合支援事業とは：空き家等対策計画に基づき実施する空き家の活用や除却などを実施する市町村に対して、国が重点的・効率的な支援を行うため、社会資本整備総合交付金とは別枠で措置するもの



▲切り替えが予定されている一区貯水池

# 嶺北広域行政事務組合議会

清掃センター4月から本格稼働

給食センターは、平成30年度中の完成に向け取り組み

教育長に高橋清人氏（本山町教育長）を任命

任期は平成34年3月31日まで

平成30年第1回嶺北広域行政事務組合議会定例会が、3月26日に開催された。

管理者の行政報告の後、平成30年度一般会計予算を始め、8議案が提出され、全議案が承認された。管理者の行政報告の概要は、次のとおり。

清掃センターの基幹的設備改良工事が終了。引き渡し性能検査及び竣工検査も合格し、4月から本格的稼働に入る。

工事中に発生したプラスチックの処理は、焼却炉の耐火物を損なうことなく計

画的に処理する。

衛生センターについては、施設更新や延命工事などに多額の財源を伴うことから、人口の動向や災害時の対応を含め、本年度中旬までに施設運営方針を決定する。

嶺北斎苑については、（建設から）27年が経過し、老朽化が進んでいる。今後は、計画的な維持修繕を進めながら、施設更新時期を定める必要がある。

給食センターについては、平成30年度に補助金交付決定を受けて工事発注を実

施し、30年度中の完成に向け取り組んでいる。



▲給食センター建設予定地

## 提案された議案の概要

負担金条例の一部を改正する条例は、別表の給食センターの項に関わらず、給食センター建設工事に係る負担金を本山町と土佐町均等割りとした。

ふるさと市町村圏基金条例の一部を改正する条例は、清掃センターの基幹的設備改良工事費の起債償還及びいほく博の経費に充てるため、平成30年度13,524千円を町村に配分し、処分後の出資金額145,432千円を131,908千円とした。

平成29年度補正予算は、年末調整処理のほか、一般会計では、清掃センターの供給・分配コンベアエプロン板取替、消防設備取替工事5,738千円を繰越明許費とし、平成30年度一般予算は、給食センター建築工事費290,000千円ほか、歳入歳出の総額は971,525千円とされた。その他、教育委員会教育長に、高橋清人氏（本山町教育長）、委員に和田京子氏（土佐町）の任命に同意。任命期間は、平成30年4月1日～平成34年3月31日である。



細川博司 町長

本年度は、①住民の皆様に関われた町政運営の実現、②次世代への将来負担にも配慮した事業選択と財政運営の安定、そして③地域資源を活かした就労の場の確保、人材育成、定住促進を柱に各種事業を実施できるような皆さんの理解を求めて行きたいと考えております。

具体には、住民の皆様さんとの対話の機会を多く持つことにより住民の皆様さんの目線にたった行政運営と町政への理解を深めて頂くよう各種

団体や機関との対話、地域懇談会や出前町長室の開設を具体的にしてまいります。

第二に定住促進と子育てしやすい環境づくりのために、第二子の保育料を条件を課すことなく半額にし、保護者の負担を軽減します。

第三として、嶺北高校の存続と18歳までの児童生徒の学力向上、生き生きとした学校生活を進めるため、子どもが「行きたい」、保護者が「行かせたい」、地域が「活かしたい」と思う学校づくり、嶺北高校魅力化プロジェクトを嶺北4町村協力して進めてまいります。

## 本町の財政状況と平成30年度予算について

### (1)平成30年度予算

前年度同様に、更新住宅整備事業、土佐本山橋の架け替え工事、アウトドアの里づくり事業など、本山町創生に向けての事業などを組み込んでいきます。

国・県の補助金や交付金を活用するとともに、財政調整基金等の取り崩しと過疎対策事業債を中心とする起債の借入れなどにより財源を確保し各種事業に取り組んでまいります。各会計当初予算の総額は、一般会計では49億8000万円、前年度当初比5億5000万円、12.4%の増額となりました。特別会計の総

額は、12億2310万円、前年度当初比3億7850万円、30.9%の減額となっております。

### (2)財政見直し

財政の健全化を表す財政指標の一つとしての実質公債費比率は、現在の比率からは高率で推移すること、単年度での歳入歳出差引不足額も予想されることから、財政計画を定期的に見直し、議会や住民の方々との情報共有により、健全な財政運営をめざしてまいります。

### (3)新庁舎建設

平成29年度において基本設計を予定していましたが、住民の皆さんの利便性向上に資する役場の機能や機構について検討が十分にできていないことや、この間

の中期財政計画における財政見直しとも関連することから、本年度において基本設計を実施したいと考えています。

## 交流人口の拡大、移住・定住の促進について

### 地域観光拠点施設「(仮称)アウトドアビレッジ」の整備

体験受入・情報発信を行うビクターセンター、団体・個人向けの宿泊施設、飲食施設、駐車場など、高知県のアウトドア活動拠点としての機能を發揮する施設整備を進めていきます。入浴施設につきましては、宿泊者や少人数・グループでの体験者が利用出来る機能を有し、かつ適切な規模を総合的に勘案して整備を進めます。

高知県の観光拠点施設、産業振興計画地域アクションプランとして積極的な県の支援や国の地方創生事業での支援と共に、嶺北4町村とアウトドア活動での広域連携など、ソフト・ハードの両面において財政面での効率のよい事業推進に取り組んでまいります。

町内交流活動団体や各種団体とも協議会を發足して、拠点機能と地域がアウトドア活動で連携する体制を構築するとともに、町内でのガイド養成や地域資源の磨き上げなど、地域の皆さんと共に取り組みを加速して進めてまいります。

## 「志国高知 幕末維新博」について

「大原富枝文学館」は、本年4月より「志国高知 幕末維新博」の県内22カ所目の地域会場として、嶺北地域唯一の会場として、新たに加わることとなりました。それに伴い、映像コンテンツの追加や常設展示コーナーの充実など、施設のリニューアルを図ってきました。町内外からのご来館をお待ちしています。

## いきいきあんしん 総合福祉計画の推進について

平成30年3月に策定した本山町いきいきあんしん総合福祉計画2018では、

基本理念として「誰もが一人ひとりいきいきと輝いて暮らせるまち本山町」を掲げ、本町で暮らす全ての人が、お互いにそれぞれを大切に、大切にされる地域共生社会の構築を目指していきます。

今後、後期高齢者の比率が増えて行くことが見込まれる中、介護予防・重度化予防に取り組み、健康寿命を延伸していくために、保健活動、医療体制、介護福祉の連携を図ります。

## 教育の振興 について

### (1) 嶺北4町村で嶺北 高校魅力化の推進

地域が一体となって嶺北高校の魅力化に向けて取組みを進めるために、嶺北高

校と嶺北4町村が「嶺北高校魅力化の会」を設立致しました。

学校・生徒をめぐる環境を地域と学校が一体となって魅力化を進め、地域にとって大事な存在である嶺北高校の発展を目指してまいります。

### (2) 町教育の振興について

(保育所) 保育所から小学校へつなぐため、幼児期の発達段階にに応じて経験を積み重ね、楽しさの実感や、探究心、好奇心、豊かな創造力の育成など、学びの芽生えを大切にします。

また、本年度から支援が必要な子どもに対して、家庭や地域への連携等を実施するため、専任保育士を配置し、個々に

応じた保育・教育の充実に努めてまいります。

### (学校教育)

組織力の向上とカリキュラム・マネジメントの充実により、教育内容の向上を図るとともに、教材・教育環境の整備を図ります。

英語教育の推進に主体的に取り組むため、高知県外国語教育コア・エリア実践研究指定事業に取り組みます。また新たに小学校に特別支援員を配置するとともに、高知県特別支援教育巡回アドバイザーによる支援をいただき特別支援教育の充実に努めてまいります。地域ぐるみで子どもを育てる仕組みとして、「地域学校協働本部」の設置を進めます。

嶺西学校給食センター建設については、本年度末の完成に向けて取り組んでいきます。

### (社会教育)

町民の皆さんが心豊かに暮らしていくために、誰もが生涯にわたって学び続け、歴史・文化・スポーツに親しむことができるように、多様な学習環境を整え、住みよい地域づくりにつなげていきます。

## 嶺北中央病院の運営について

昨年3月に策定された「第三次経営健全化計画」を病院職員及び医療関係者の間で共有化し、全職員で計画の実現を目指して引き続き推進してまいります。

当院は嶺北地域唯

一の救急病院として、医療スタッフの確保を図りながら救急医療体制を維持し、町民の皆様が安心して生活できるよう、安心・安全な医療を今後も提供してまいります。



澤田紀夫 議員

## どうする、未収金問題 最善の方法で取り組む

**問** 平成28年度の決算に、多額の未収金が計上されている。平成29年度の見通しと、徴収の取組みを問う。

**答** 例年12月に滞納整理本部を設置し、現年度未

収金の電話催促、徴収事務を行っている。また、職員での対応が困難な滞納分を南国・香南・香美租税債権管理機構に徴収の移管を行い、成果が上がっている。

## どう変わる、国保 31年度以降は未定

**問** 平成30年度から国保の運営主体が県に移管される。本町の納付金額（保険料）の見通しは、事務手続き等の変更はあるのか。

**答** 平成30年度は激変緩和措置の対象になっていることもあり、保険料の見直しはない。31年度以降は未定。

事務手続の変更点は、保険者に高知県が加わる

こと、加入の資格管理が都道府県になること等。

## どう描く、公共交通の未来 新たな交通網形成を目指す

**問** 「嶺北地域公共交通協議会」が設立されている。今後の予定と、デマンドバス構想も含めた本町の取組みを問う。

**答** 交通事業者など9機関で設立。平成33年度の新たな交通網の形成を目指しており、30年度は実証運行までの予定。

運行計画の内容は、定時定路線、予約方式、の両方法で検討し、公共交通のない空白地域を補う。



▲十二所谷川砂防工事予定地



▲桜の名所上街公園

### その他の質問

**問** 上街公園は総区（二区から四区）の所有。町への無償貸与契約が今年12月で切れる。今後の対応は。

**答** 現状のまま利用していきたい。平成30年度、早期に代表者と話し合いをする。

**問** 庁舎（平成32年度完成予定）のプロポーザル方式による業者選定の状況と、CLT工法採用は。

**答** 現在、プロポーザル方式での業者選定に向けて、要綱を検討中。CLTも含め工法は未定。

**問** 十二所谷堰堤工事は、立木が伐採された状態である。今後の工事予定と地元対応は。

**答** 工事用道路を秋頃完成の予定。本工事の発注を年度内に行い、決定すれば、区長等に説明する。



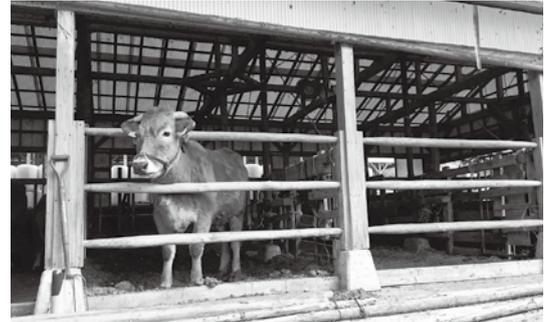
吉川裕三 議員

**問** 新食肉センターに係る本山町の負担額の目安は約4,700万円になる。  
**答** 県が推進し、J Aが参画する新食肉センターの整備については前向きに検討を進めていく。

**問** 高知市に新設される高知県新食肉センターの整備費用の負担額は、平成34年度4月稼働に向けて本町の姿勢を問う。

# 高知県新食肉センターへの取り組みは前向きに検討する

## 維新博の取り組みは観光協会と連携して



▲人気沸騰土佐あかうし

**問** 本年4月21日から、大原富枝文学館が志国高知幕末維新博の地域会場になる。  
集客目標と観光協会との連携は。

**答** 集客の目標については、年間5,000人を目標とする。今までの平均が年間約1,300人で、約4倍の目標としている。

本山町観光協会と連携して、ガイドの養成、ガイドブックの作製をする。町の歴史にスポットを当てたフットパスを計画。  
①水路、井めぐりコース  
②本山城跡コース  
③沈下橋コース

※フットパスとは…森林や田園地帯、古い町並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと

## 産業振興センターの行政目的は地域のアンテナショップとして

**問** 本山町産業振興センターの行政目的について問う。

**答** この施設は本山町のみならず、嶺北地域全体の産業振興、商品の開発、交流を促す地域のアンテナショップとしての役割を担うとともに、先導的施設としての機能を果たすことを目的としている。

### その他の質問

**問** れいほく地域振興(株)の経営について、議会への説明と住民への情報公開が充分行われたと言えるのか。

**答** ここ数年の情報開示は不十分であった。

**問** 戦没者追悼式の孫・ひ孫世代への承継について。

**答** 遺族会と協議をもち、検討。



▲戦没者追悼式

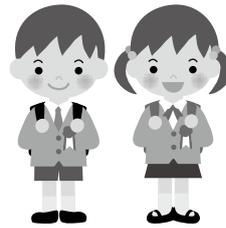
## 就学援助制度の改善を 来年度に向けて対応する



中山百合 議員

**問** 国の平成29年予算で、要保護世帯の就学援助費のうち、新入学児童生徒の入学準備金費の補助単価2倍に引き上げられた。準要保護世帯の就学援助費は国庫補助の対象ではないが、要保護世帯と同じように単価を引き上げるべきではないか。又、入学準備費用の補助は入学前の2月頃までに支給できないか。

**答** 準要保護世帯については、平成29年度より要保護世帯と同じように単価を引き上げている。保護者の経済的不安を少しでも早く解消するため、入学前の支給を来年度に向けて対応していく。



▲再利用を望む議場建物

## 建物の 再利用を 慎重に検討し 早急に対応

**問** 新庁舎建設後、旧庁舎と西庁舎の活用はどの様に考えているか。議場等で利用している建物は、耐震工事をし図書室としてリニューアールできないか。

**答** 新庁舎建設後の対応は早急に検討していかなくてはならない。西庁舎は一定耐震性が担保されており、直ちに壊すということにはならないと考える。議場建物は老朽化とバリアフリーの観点から改修整備は考えていない。

## 移動手段を 確保せよ 年度内に実証運行 まで進める

**問** 移動手段確保の為にアンケートを実施した経緯がある。運転免許証の返納が年々増加している。持続的な可能策を指していると言うが、現在どのように進んでいるか。

**答** 本年度4月に地域や交通事業者等の関係者の皆さんによる地域公共交通会議を設置し、協議が整えば、平成30年度において、実証運行まで進めていく。

### その他の質問

**問** 旧柿本医院の中に保管されている書物、民具等はどこかに展示できないか。

**答** 今後有効に活用していきたい。

**問** 老朽化している町営住宅（特に裏の門住宅）を至急撤去すべきでは。

**答** 老朽化の度合いにより補助対象になれば実施する。



▲展示が待たれる民具



澤田康雄 議員

## 住宅新築資金貸付金

### 時効はないか

### 時効はないと認識

**問** 全ての自治体において滞納問題を抱えているが、滞納のワーストは地方税、国保税、保育料である。本町の不納欠損金額の状況、又※援用権の必要な債権で、学校給食費、水道料金等特に住宅資金貸付金は時効になった債権はあるのか。

**答** 不納欠損で28年度決算で処分している件数は町民税で6人、固定資産税で25人、軽自動車税15人、国保税16人、欠損処分をしている。住宅新築資金貸付金等の償還率の低下が著しく、1億1573万円の未償還額となっている。時効はないと認識している。

※援用とは…時効による利益を享受する旨の意思表示のこと。取得時効や消滅時効の効果が生じていることを主張すること。

## 国調遅延の責任は重大深く反省

**問** 北山地区など国土調査の認証遅延地区があるが、当時の担当者は現町長ではないか。事業完了できなかった理由は何かあるのか。町費が無駄になり、再調査にも多額の町税を使う。町に対し損害を与えており責任重大だ。職員との信頼関係も心配だが。

**答** 国土調査の担当は間違いない。ご指摘の対象地域の地籍調査を実施し、測量段階までは至ったところだが、大面積について認証まで至っていない状況については私自身深く反省している。

## 上下関集落

### 活動センターの活性化を

### 町も協力する

**問** 上下関地区に集落活動センターが開所されるが、同地区には多くのお宝がある。町としても宣伝し、盛り上げるべきだ。

**答** 行川を中心に上下関地域の振興について熱心な検討を重ねてこられた町としても同地域の振興に意を尽くしていきたい。



▲賑わうなめかわまつり

## その他の質問

**問** 高角地区漏水が酷い。調査すべきでは。  
**答** 住宅付近の亀裂も発見され経過観察をしている。

**問** 近場のハイキングコースの今後の整備を問う。  
**答** 帰全公園から白髪山へのコース、30年度協議し進めたい。

**問** 遅越橋から旧白髪小までの町道の状態が悪い。早急な補修ができないか問う。  
**答** 町道の舗装は、木材の搬出作業が終わり次第検討する。



▲整備された登山道(八反奈路へ)

# 住民参加の町政とは 出前町長室を設置し進めていく



河邑一雄 議員



▲議会報告会・意見交換会（上関）

**問** 新年度を間近に控え、公約で掲げた「住民参加の町政」「対話と理解の町政」運営について、町民に對しどの様な形で進めていくのか。

**答** 町長が直接地域に向くことにより、町民と行政の相互理解を深める。住民の意見、提言を細かく把握し、開かれた町政、目に見える町政の

実現、町民参加の協働のまちづくりを目指す。出前町長室を設置することによって住民との関係を深めていきたい。

## 産業振興 センター 活用は

## 設置目的に 沿う形で調整

**問** れいほく地域振興(株)の問題に對する一方、建物自体の活用については当然並行して検討しなければならぬ。駐車場も備えた建物を利用する。状態では未使用の状態に置かれることを懸念する。利用方法等についてどの様に検討されているかを問う。

**答** 町内の食材の供給や販売及び地域資源の活用を図る等、建設当初掲げられた行政目的に立ち返ることを検討中である。建物自体20数年経過し雨漏りもしており、今後の様に維持していくか個別計画も立てる予定である。

## れいほく博への 取り組みは 開催に向け準備中

**問** 来年の7月から12月まで嶺北4町村が連携して進めていくとの新聞報道があった。本年度には推進協議会も設置し取り組むとのことであるが、地域内外特に本町の住民にとって

喜ばれる、足を何度も運んでもらえるものでなければならぬと思う。内容、今後の取り組みを問う。

**答** 本町のアウトドア施設を主会場として嶺北地域の観光施設と連携して実施するものである。開催経費は、県補助金、嶺北広域基金を充当。事務局は本町に設置し、県職員1名、本町及び土佐町から各1名、臨時職1名で対応していく。3月末の「土佐れいほく推進協議会設立総会」に向け準備中である。



▲土佐れいほく博推進協議会事務局



宮田俊一 議員

**答** 大原富枝文学館は、平成3年11月に開館し、建物については築65年経過し、耐震性は確保され

**問** 平成2年に建物の調査をした結果、建て替えか移転の必要があるとのことであったが、その後28年余りを経過をし、現在の老朽化対策は、現在の大原富枝文学館を寺家地区へ誘致する請願書を採択したが、今後の対応は。

## 大原富枝文学館の今後は検討が必要

ていない。今回の改修は必要最小限にとどめている。

請願書は平成24年9月4日議会で採択されており、今後大原富枝文学館を建て替える時は建設用地について検討が必要。

## 鳥獣防護柵を 現在は対象にならない

**問** 寺家地区に早急な防護柵を。

**答** 現在、町単独で予算は無く、国や県の補助を



▲国や県の補助を活用して防護柵設置

活用している。県単事業に関して本町では、補助要件を中山間地域等直接支払制度に属している地域のみ対象としているため、寺家地区は対象にはならない。  
具体的な加入の方法、手続等は今後知らせる。

## 残土処分場は 現段階では 答弁できない

**問** ①寺家地区から安土地区間の県道を利用できないか。勾配の激しい、災害を誘発する工事用道路の建設は必要があるのか。  
②約500万円の予算はどういった方面に利用されているか。

**答** ①県道利用については現段階では答弁するには至っていない。  
②用地購入費の500万円は全額減額の提案をしている。

### その他の質問

**問** れいほく地域振興(株)の現状は。

**答** 現在の情報は得ていない。

**問** アウトドア事業

**答** 縮小案を6月定例会までに提出、又温泉は使用しない。

**問** 土佐本山橋の名称

**答** 継承する愛称は検討。

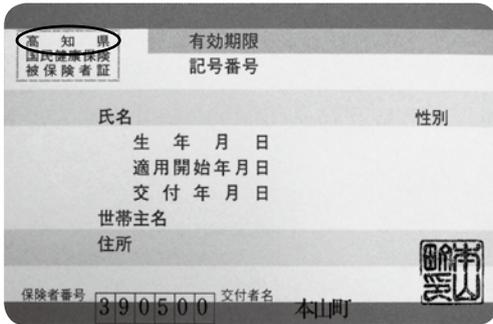


▲愛称「吉野きらきら橋」

# 国民健康保険の 運営主体移管とは 加入者の資格管理は高知県



長瀬美和 議員



▲記載が「高知県」になった保険証

**問** 移管に伴う本町の変化と、それに対する対応は。

**答** 平成30年度から毎年度、高知県から納付金額が通知される。本年度は激変緩和措置対象となっており、納付金額は約9000万円。本年税率の見直しは行わないが、今後も税率の在り方については引き続き検討が必要な状況。被保険者証に高知県の記載が加わるが、保険証の形態は今までと同じである。

## 地域包括 ケアシステム の取り組みは 「いきいきあんしん 総合福祉計画」で 強化と推進

**問** 住み慣れた地域で自分らしい暮らしへの支援策は。

**答** 保健師を中心とする健康教育。早期発見・治療のための検診受診率の向上。住民活動に根差した生きがいと健康づくり。社会福祉協議会による地域福祉の推進。町立嶺北中央病院と連携、切れ目のない在宅医療と介護の連携推進を検討中である。

## 本山ならではの 子育て支援策を 現実的な対応も含めて、 調査研究を



▲生きがいづくり（四区ミニデイ）

**問** 少ない日数での病後児保育、ファミリーサポート、ベビーシッター派遣など取り組みを。

**答** 実際の需要があるかどうかが大きな問題となる。年間60人生まれる町でも、2人しか需要が無い例もあり、検討を要する。

### その他の質問

**問** 地域医療検診受診率の向上策は。

**答** 検診実施日について周知広報すると共に、実施日の拡充など、受診の利便性向上と効率的、効果的な運用を病院と協議し実施する予定。



永野栄一 議員

**問** 施政方針で「各種団体と機関との対話、地域懇談会や出前町長室を実施する」と表明したが実施要領は。

## 地域懇談会、出前町長室の実施要領は

### 要請があれば何度でも開催

**答** 地域懇談会は、2月9日の区長会で要請している。

庁議の中で合意形成をした上で、広報する。

出前町長室は、5名以上の住民の要望があれば、意見交換を目的に開催したい。

休日を除き、午前9時から午後9時、2時間以内を想定。総務課を窓口として日程などを調整をし実施する。

## 認知症を 地域健診の 項目 今後の 検討課題

**問** ①認知症は早期発見が重要である。地域健診の項目にすべきではないか。  
②障がい者支援には、専門技能が必要であるが、

嶺北には発達障がい者に対応する施設がない。対応は。

**答** ①現在、地域包括支援センターを中心に、認知症初期集中支援チームで、医師や専門職と連携して認知症の疑いがある方への支援を実施している。健診については、嶺北中央病院長などに血液検査の有効性などの意見を伺い、今後の検討課題としたい。

②施設への受け入れ等、障がい全般の相談窓口は、「保健福祉センター」、



▲受けよう、地域医療検診

## 公共交通の進捗は 11月から実証運行予定

「地域相談支援センターしゃくなげ」があり、相談内容に応じて専門機関につなげる等の対応を行っている。また、地域活動支援センターの在り方について、各町村自立支援協議会等でそれぞれ課題を整理、検討していく。

**問** 公共交通に対する住民アンケート結果と公共交通会議設立は。

**答** 移動手段空白地域7か所で住民ヒアリングを実施した。その意見を踏

まえ、4月から公共交通会議を開催し、交通網形成計画を策定後、11月から実証運行を始めたい。

### その他の質問

**問** アウトドア施設設立目的に変更はないか。宿泊可能数は。

**答** 変更はない。団体宿泊62名、コテージ40名の合計102名。



▲完成した体育館付随施設



上田亜矢子 議員

# LEDを小学校へ優先的に 財源確保が課題 安全点検を実施

**問** LEDは、蛍光灯と違いプラスチックなので、地震の時に落ちて割れにくい。しかし、既設の古い元口に付け替えただけでは、エコを発揮できないばかりか、火災の恐れもある。  
子どもたちの命を考えると、小学校に優先的に

導入する必要があると考える。

**答** 小学校2校とも、非構造部材等耐震対策工事を施工。天井材、照明器具、内壁、収納棚が地震の際に落下、転倒の恐れがないか、亀裂や腐食等の異常がないか等の点検をし、補強及び改修工事を実施した。  
今後、LED化を図っていくべきだが、財源確保が今後の課題である。

# 町のホームページの魅力を ルールを作って

**問** 閲覧者数はどれぐらいなのか。新町長になっての挨拶も早く更新すべきでは。  
職員の顔が見える形で、

各課の紹介、これからの方向性を載せたら、読んだ者は身近に感じるし、興味を持ってホームページを利用したくなるのではないか。



▲魅力化が望まれる町ホームページ

**答** 平成29年3月から30年2月の平均閲覧者数は1万9,350件。  
新町長挨拶は、現在掲載すべく準備を進めている。  
各課がフェイスブックや、ブログを立ち上げて、職場の考え、あるいは町の考えに沿って情報を発

信することは、有意義なことだと考えているが、実施するに当たっては、ルールづくりが必要。検討したい。

# 維新博を盛り上げて いこう 特別企画展を実施

**問** 維新博第二幕が、四月から始まり、大原富枝文学館が嶺北のメイン会場となる。県も力を入れており、ポスト嶺北博として、連携して観光や交流人口の拡大につなげていくとのこと。  
どのような企画をしているのか。

観光客に消費を喚起させる仕組みはどのように考えているのか。

**答** 4月15日からは、春の兼山祭にあわせて、野中兼山に関する企画展を予定。7月以降は参勤交代に関するもの、幕末維新写真展、県の推進協議会の巡回展などを計画。観光客に消費を喚起させる仕組みは、本町に訪れた方が、豊かな自然や文化に触れて、より充実した時間を過ごし、また本山町に訪れたいという多彩な観光メニューで長時間滞在していただくことだと考える。



▲新しゅうなっただけ来てよ。大原富枝文学館



岩本誠生 議員

## 諸課題の 解決に全力を それぞれ 真摯に対応

**問** ①庁舎建設の企画提案（プロポーザル）募集を30年度に延期したかどうか。  
②アウトドア事業の温浴施設が二転三転している。住民の声を反映すべきではないか。  
③国土調査の遅れが再三指摘されているが、町長が担当者であった当時からだと聞く。その原因と所見を聞く。

④新築貸付資金等の償還について法的手続きに問題はなかったか。時効の中断、連帯保証人の変更等資料よる具体的な説明を求める。

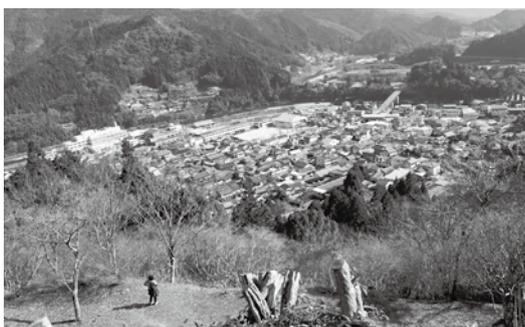
**答** ①庁内の検討委員会に機能、機構について再度煮詰めるように指示をしたため。その後プロポーザルをし、住民の意見を聞く。  
②宿泊者、地域の方々の利用等も考慮し、規模等を検討して6月議会に補正予算を提案する。  
③認証遅延が生じていることは、過去の担当であった私としても申し訳なく陳謝し、今後その回復に意を尽くす。  
④現時点では、時効は成立していないという認識である。時効の中断、消滅時効の法的なことについては調査の上、資料を提出する。早期に解決しなければならぬ課題であり適切に対応する。



▲嶺北中学校制服

## 教育費の負担 軽減策は 中学校制服無料支給を 検討

**問** 義務教育における負担軽減を図るため、副教材の無料化、給食費の補助、中学制服の無料支給等の取り組みはどのようなものか。  
**答** 保護者の負担軽減のため、中学校の制服については来年度実現に向けて検討する。今後とも教育費の負担軽減、学力向上に取り組む。



▲景観整備後、見晴らしが良かった城跡

**問** 早明浦ダム再生事業についての経過は。  
**答** 30年度から調査・測量開始。31年度に工事着工予定。総工費約4百億円。下流への影響、効果等情報が入り次第報告する。

**問** 本山城復元計画の具体的取り組みは。  
**答** 調査検討会発足。周辺の立木伐採し景観整備を実施。

### その他の質問

総務常任委員会

2月5日

本山町の福祉事業に関する調査

総合福祉ゾーン香南会「天空の里」にて説明を受けた。

「天空の里」は昨年4月に開設し、嶺北広域事務組合より事業移管を受けた。

施設規模は、次表のとおりである。



▲地域交流棟「もとやま」にて説明を受けた

1. 施設別入所者（利用）数

施設	定員	現在数	本山町入所利用者数	備考
養護老人ホーム山吹	60	60	13	全室個室6畳半
特別養護老人ホームそよ風	80	80	27	2名一室中央を仕切り個室6畳半
ケアハウスさくら草	30	29	9	全室個室6畳半
デイサービスこまどり	20/日	登録43	14	12月稼働率95%
認知デイサービスかわせみ	24/日	登録39	11	12月稼働率96%

2. 職員数

	採用	移動	全体	介護員	看護師	間接業務	相談員	事務	宿直	運転手	栄養士	機能訓練	施設長
本山町	19	15	34	20	5	1	0	2	2	1	0	1	2
土佐町	12	7	12	15	1	0	0	0	1	1	0	1	0
大豊町	8	1	9	7	0	2	0	0	0	0	0	0	0
県内	3	18	21	15	0	0	5	0	0	0	1	0	0
県外	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
合計7	43	41	84	57	6	3	6	2	3	2	1	2	2

(職員数は84名で内本山町34名、嶺北管内からは62名74%を占めている)

入所待機者は特別養護老人ホーム「そよ風」が10名程度（特に急がれる方が1～2名）「さくら草」で5名程度。認知症がひどく家庭で介護できない場合は優先的に入所させている。

地域交流棟「もとやま」は、来年度に町の福祉避難所として協定を結ぶように考えられている。昨年は利用されず今後は広報にも努めるとのことであった。

産業土木常任委員会

2月14日

本山町統合簡易水道事業に関する調査

本山町統合簡易水道事業について、事業担当者から説明を受けた。

本山町簡易水道は平成28年の事業変更認可により (1)本山配水区 (2)五区配水区 (3)上関配水区(4)大石配水区 (5)吉延・高角配水区 (6)古田配水区と経営統合され、名称が簡易水道から配水区へと変更された。

本山・五区、両簡易水道ともに施設の老朽化や耐震性能の不足、維持管理に考慮しながら統合簡易水道の補助事業を利用して老朽施設の更新と分散した施設の一元化を目指すものである。

施設整備の状況・成果については、次の表に示すとおりである。



▲現地にて説明を受けた（吉野）

年度	施設整備	導水管	送水管	配水管	給水管	金額
H24	吉野浄水場造成		1448.2m	1007.1m	66軒	128,255千円
H25	ろ過池3池					183,209千円
H26	ろ過池3池、吉野配水池、吉野管理棟	294.2m	336.1m	2117.9m	34軒	231,218千円
H27	本山配水池造成、本山配水池			336.3m	7軒	246,867千円
H28			859.4m	4844.8m	104軒	252,907千円
H29				8236.0m	354軒	300,456千円
	計	294.2m	2643.7m	16542.1m	565軒	1,342,912千円

本山簡易水道の汗見川からの取水量は有収水量約50%、残りは無収水量や漏水等の現状で、そのためにポンプ稼働の電気代、塩素滅菌消毒等の費用、ろ過池の清掃など維持管理に多くの費用が掛かっている。

また、送水管（浄水場～配水池）はダクタイル鋳鉄管、導水管（取水～浄水場）・配水管（配水池～各家庭）は水道配水用ポリエチレン管を採用し、今後発生が予測される南海地震等、災害に強い構造になっている。

施設統合後には、ろ過池などの日常点検の労力、圧送ポンプの電気代が圧倒的に減少する。

また、大幅な管路更新により、維持修繕費も削減されることも予想される。

現在、新施設への移行に向け準備を進めている。経営状況は、人口減少、起債の償還で厳しくなると予想される。安定的な事業運営を維持していくため、管路や施設の更新需要等の将来試算と経営収支の見通しを踏まえ、適正な料金水準の設定が検討される。

# いきいきインタビュー

『もとやま桜援隊』の座長、岩本淳治さんにお話を聞きました。平成23年に学校支援を目的としてスタート。言い出しつぺなので、座長をやっているとの事です。



▲熱く語る岩本淳治座長

## ●名前の由来

学校を応援する応援という言葉に、桜の文字を本山町花の桜の文字に置き換え桜援隊とした。

## ●活動の二本柱

①学校桜援隊  
学校支援を通じ、地域の方と触れ合うことで、子ども達の

社会性が磨かれ、郷土愛が培われる。同時に、お年寄りの生きがい、地域の活性化にも繋がる。

## ②放課後桜援隊

共働きも増え、子ども達が一人で過ごすことが多い。子ども達の安全な居場所を地域で確保し、健康やかに育つ環境を作る。放課後子ども教室を実施。

## ③家庭教育桜援隊

母親が相談出来ず困っている事を、地域の子育て経験者が

助ける。家庭での事を包括的にサポート。

## ●地域が育てる意識

皆さんに地域で育てる、見守る意識を持ってもらいたい。前を通る子ども達に、声をかけ、話を聞いてあげて欲しい。

## ●人がおらん

桜援隊を広く皆さんに知ってもらい、



賛同し活動してくださるボランティアをいかに増やすかが、今後の課題。

## 『できる人が、できる時に、できることから』

難しく考えず、地域のお節介なおじさん、おばさんになってください、この事でした。

岩本座長の熱心なお話で、私達も勉強させて頂きました。さっそく登録し、子ども達を見守り、育てたいと思えました。

皆さんもぜひ、ご登録ください。

もとやま桜援隊へのお問い合わせ・お申し込み ☎0887-176-2084 (プラチナセンター内)

# 編集後記

『今年の冬はひやかた。雪もようけ降った』と思っていたのに、桜は意外と早く咲き、名残を惜しみつつも散っていきました。

維新博が開催される大原富枝文学館。たくさんの方々に越えいただき、本山町の歴史や文化が広く知れ渡ればいいなと思っております。

そして、未来へ、居心地の良い町へ。

『議会だより』が、その一助となれば幸いです。

(澤田紀夫)

広報編集常任委員会